

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

The association of environmental house dust mite allergens and crustacean allergy: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

環境中のダニアレルゲンと甲殻類アレルギーとの関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Asia Pacific Allergy

年: 2025

DOI: 10.5415/apallergy.0000000000000169

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター(山梨)

目的:

欧米と比べてアジアで甲殻類アレルギーの有病率が高いのは、エビとダニの交差反応のためと考えられている。本研究では、環境中のダニアレルゲンと甲殻類アレルギー発症との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル詳細調査に参加した 4,242 人の子どもの 4 歳時までのデータを解析した。4 歳時での甲殻類アレルギーの有無は自記式質問票で把握し、自宅のハウスダストは測定キットを用いて測定した。1 歳半及び 3 歳時のハウスダスト中のダニアレルゲンと 4 歳時の甲殻類アレルギーとの関連を多変量ロジスティック解析で解析した。

結果:

4 歳時における甲殻類アレルギーの有病率は 0.4%であった。1 歳半の時のハウスダスト中のダニアレルゲンのばく露が多いほど、甲殻類アレルギーが多かったが、統計的有意差はなかった。3 歳時のハウスダスト中のダニアレルゲンのばく露量と甲殻類アレルギー発症には関連がなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では甲殻類アレルギー有病の有無が養育者の報告であること、エビに関連する詳細な特異的 IgE 抗体が調べられていないことなどが、本研究の限界である。

結論:

環境中のダニアレルゲンと学童期前の甲殻類アレルギー発症との関連は明らかではなかった。